

令和5年度 第8回FD研修会・意見交換会

卒業生との つながりとフォローアップ

日野克博 (愛媛大学)

2024.2.8 愛媛大学教育学部103教室

内容 (流れ)

1. テーマ設定の趣旨
2. 取り組み事例 (アイデア)
3. 意見交換

テーマ設定の趣旨

Q. なぜ、卒業生とのつながりを？
なぜ、卒業生のフォローアップを？

教員各位

教育学部長 小助川 元太

令和5年度第8回FD研修会・意見交換会
卒業生とのつながりとフォローアップ

令和5年度第8回FD研修会・意見交換会を以下のとおり開催いたします。
今回は、「卒業生とのつながりとフォローアップ」というテーマで研修会を行います。
卒業後の教職キャリアのサポート、卒業生からの意見に基づく教職カリキュラムの見直しなどにもつながっていくテーマであり、大学や教員養成学部として対応が求められている課題でもあります。

- * 卒業後の教職キャリアのサポート
- * 卒業生からの意見に基づく教職カリキュラムの見直し

テーマ設定の趣旨

R3答申：『令和の日本型学校教育』を担う
教師の養成・採用・研修等の在り方について

4. 教員養成大学・学部、教職大学院の在り方

教員養成大学・学部、教職大学院の高度化・機能強化

- ・ 学部と教職大学院との連携・接続の強化・実質化 (教職大学院進学希望者対象コースの設定、先取り履修を踏まえた教職大学院の在学年限短縮等)

養成

採用

(5) 教員就職率の向上

教員養成大学・学部は、教員養成を主たる目的として、学部4年間の体系的な教員養成カリキュラムによる教員養成を行うものであり、教師を志望する学生を受け入れ、学部教育を通じて教員免許状に必要な基礎資格及び単位の取得並びに必要な資質能力を身に付けさせた後、現場で活躍する教師として輩出することが期待されているものであり、その設置の趣旨・果たすべき役割に照らして、各大学は、教員就職率を確実に継続的に高めることが求められる。

各大学においては、地域の教育委員会等とも密接に連携を図りつつ、**学生や卒業生に対するアンケートも有効に活用しながら**、

テーマ設定の趣旨

教育学部 アセスメントプラン

No.	名称	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	手法	実施責任部署	結果の活用方法
1	新入生アンケート	毎年4月	1年生	本学への満足度、入学前の学習状況、校外学習の意識、卒業後の進路	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各学部の学習支援やキャリアプログラムの改善、自己点検・評価、情報公開に活用
2	学年末アンケート	毎年1-3月	全学年	学習行動、授業、カリキュラム満足度	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各学部の授業方法やカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業予定者アンケート	毎年1-3月	4年生	在学中の状況、実学生コンセンサスの獲得状況	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各学部の学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	授業アンケート (共通教育)	毎年4回 (各クォーター)	全学年	学習の状況、授業の満足度	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が各学部に報告し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
5	成績不振学生の調査	毎年2回	全学年	学習不振の状況 (GPA、修得単位数、休学者数)	Webアンケート	教育・学生支援機構/各学部分	各学部の教育学生支援会議に報告し、各学部の学習支援の充実、自己点検・評価に活用
6	体面調査	毎年1回	全学年	休学者数、退学者数	Webアンケート	教育・学生支援機構/各学部分	各学部の教育学生支援会議に報告し、各学部の学習支援の充実、自己点検・評価に活用
7	学生モニター会議	三ノ宮北	全学年	学習行動、授業、カリキュラム満足度	インタビュー	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が各学部に報告し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
8	学生代表者会議	毎年1回	全学年	キャンパスライフ、カリキュラム満足度、大学への要望	対面	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、学生へのフィードバックを継続
9	卒業生の進路状況	毎年1回	4年生	卒業後の進路 (就職率、専攻内就職率、進学率)、就職活動の状況	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
10	卒業生調査	毎年1回	卒業後3年経過後の卒業生	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身につけた能力、授業や教育プログラムへの意見、要望	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各学部の学習支援やキャリアプログラムの改善、自己点検・評価、情報公開に活用

テーマ設定の趣旨

教育学部 自己点検・評価活動
(自己点検・評価委員会)

日 時	令和5年3月22日 (水) 11時00分~12時00分
場 所	本館2階カンファレンスルーム
出席者	教育学部長、教員養成部長、田中委員、日野委員、福井委員、日野委員
(傍聴)	説明員

← 令和5年5月 教授会報告

その他

・ 学部自己点検評価委員会における今後の検討課題
今後、卒業生や就職先関係者からの意見聴取の手法について、系統的な調査を行えるよう工夫・改善する必要性が示唆された。

その他
・ 学部自己点検評価委員会における今後の検討課題
今後、卒業生や就職先関係者からの意見聴取の手法について、系統的な調査を行えるよう工夫・改善する必要性が示唆された。

テーマ設定の趣旨

愛媛大学 監事監査（定期監査） 毎年

令和5年 監査事項

- (1) 今年度開始した対応策の取組内容
(タバ-シティ, DX, 広報・情報発信 他)
- (2) 所掌業務の実施・改善の状況と課題, 懸念事項
(コース再編, 連携教職課程, 高校との連携 他)
- (3) ガバナンス体制・内部統制の整備・運用状況
- (4) 卒業生に対するフォローアップ
(就職後のフォロー, 大学へのフィードバック 他)
- (5) その他

全学的な取組体制がとられていると思いますが, その下の各部署における取組実施や独自の試みなどについてお答えください

テーマ設定の趣旨

悩みごと・・・

*卒業後のつながりをどうすればいいか?

- 大学のアドレスは使えなくなる
- 卒業生の連絡先がわからない
- 数年で勤務先が変わっていく
(住所等…個人情報の取扱い)

*卒業生からの意見を学部のカリキュラム等の見直しにどうかしていくか?

- 組織的な取組にしていくには

(サンヒル) 研究室の取組

日野研究室・系岡研究室
サンヒル (Sun Hill) 研究室 (←学生が命名)



「Slack」の特徴

- 無料アプリ (有料版もあるけれど…)
- スマホでもコンピュータでも使える
- 操作が簡単
- 附属中や教育実習でも利用

Slackの活用

卒業生とつながるために

- 在学時からつながっておく
- 卒業後もつながれるようにしておく
- 卒業生とつながりを保っていく
(こちらからも情報を発信する)
- 卒業生からの相談に対応する
卒業生にお願いします

Slackの活用



Slackの活用

悩みごと・・・

*本当につながっているか?

- どれくらいみてくれているか…
- 卒業生の状況は十分把握できていない

*フォローアップになっているか?

- フォローが必要な人に届くには…
- どのようなフォローができるのか?

*授業改善やカリキュラムの見直しにつなげられているか?